



2022年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2022年2月2日

上場会社名 三菱食品 株式会社 上場取引所 東
 コード番号 7451 URL <https://www.mitsubishi-shokuhin.com>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 京谷 裕
 問合せ先責任者 (役職名) IR室長 (氏名) 葛巻 良介 TEL 03-4553-5229
 四半期報告書提出予定日 2022年2月14日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無：有
 四半期決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

1. 2022年3月期第3四半期の連結業績（2021年4月1日～2021年12月31日）

(1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2022年3月期第3四半期	1,529,673	—	14,759	24.4	15,915	23.3	11,200	14.0
2021年3月期第3四半期	1,977,008	△2.9	11,868	19.9	12,912	16.0	9,826	20.3

(注) 包括利益 2022年3月期第3四半期 8,944百万円(△36.5%) 2021年3月期第3四半期 14,084百万円(82.1%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2022年3月期第3四半期	228.70	—
2021年3月期第3四半期	171.98	—

(注) 「収益認識に関する会計基準」（企業会計基準第29号 2020年3月31日）等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、2022年3月期第3四半期に係る売上高については、当該会計基準等を適用した後の数値となっており、対前年同四半期増減率は記載しておりません。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2022年3月期第3四半期	788,418	167,737	21.3	3,849.59
2021年3月期	684,280	197,006	28.8	3,445.70

(参考) 自己資本 2022年3月期第3四半期 167,599百万円 2021年3月期 196,877百万円

(注) 「収益認識に関する会計基準」（企業会計基準第29号 2020年3月31日）等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、2022年3月期第3四半期に係る各数値については、当該会計基準等を適用した後の数値となっております。

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2021年3月期	—	25.00	—	25.00	50.00
2022年3月期	—	35.00	—		
2022年3月期（予想）				45.00	80.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：有

配当予想の修正については、本日(2022年2月2日)公表の「業績予想の修正及び配当予想の修正（増配）に関するお知らせ」をご覧ください。

3. 2022年3月期の連結業績予想（2021年4月1日～2022年3月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	2,000,000	—	18,700	19.7	20,000	18.3	13,500	21.9	282.89

(注1) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：有

連結業績予想の修正については、本日(2022年2月2日)公表の「業績予想の修正及び配当予想の修正（増配）に関するお知らせ」をご覧ください。

- (注2) 2022年3月期の期首より「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日)等を適用しており、上記の連結業績予想の売上高は当該会計基準等を適用した後の金額となっており、対前期増減率は記載しておりません。
- (注3) 当社は2021年7月20日開催の取締役会において、自己株式の消却について決議いたしました。連結業績予想の「1株当たり当期純利益」については、当該自己株式の消却の影響を考慮しております。

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(注) 詳細は、添付資料P. 7「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項(会計方針の変更)」をご覧ください。

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	2022年3月期3Q	43,537,200株	2021年3月期	58,125,490株
② 期末自己株式数	2022年3月期3Q	155株	2021年3月期	988,361株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	2022年3月期3Q	48,977,084株	2021年3月期3Q	57,137,182株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

上記の予想は本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

(決算補足説明資料の入手方法)

決算補足説明資料は、2022年2月2日(水)に当社ホームページにて掲載する予定です。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	5
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	5
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	7
(継続企業の前提に関する注記)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	7
(会計方針の変更)	7
(追加情報)	8
(セグメント情報等)	8
3. 補足情報	10
(1) 品種別売上高明細表	10
(2) 業態別売上高明細表	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間(2021年4月1日～12月31日)におきましては、新型コロナウイルス感染拡大に伴う緊急事態宣言及びまん延防止等重点措置が9月30日をもって全国的に解除されたことにより、経済活動の制限が緩和され、人流も徐々に回復傾向となりました。一方で、直近では変異株発生に伴い再び新規感染者が増加に転じており、今後の消費動向については依然として先行き不透明な状態が続いております。

このような状況下、当社グループは、徹底した感染拡大防止策を講じつつ、コロナ禍で変化した生活者のライフスタイルに対応すると共に、機能向上への取り組みを通じて取引先様に対し、より付加価値の高い機能の持続的提供を図ってまいりました。

当社グループは、2021年度からの新たな経営方針として、2023年度を最終年度とする「中期経営計画2023」を策定し、新たに当社グループの存在意義である「パーパス」を「食のビジネスを通じて持続可能な社会の実現に貢献する」と定めると共に、中期的に目指す在り姿である「ビジョン」を「次世代食品流通業への進化(サステナビリティ重点課題の解決)」と定め、この実現に向けて取り組んでおります。

当期間における具体的な取り組みとして、当社展示会「ダイヤモンドフェア」を2年半ぶりに開催いたしました。ウィズコロナからアフターコロナへと大きく市場が変化するタイミングで、ご来場いただいた多くの皆さまに対し、今後の課題解決に向けた様々なご提案をさせていただきました。

今後も日本の食を支える企業として、食卓に「より良い」食をお届けするため、引き続きDX推進によるオペレーションの更なる効率化と、「日本各地の食文化の維持・発展、地域社会の最適化を追求するため、生産者から生活者まですべての人々を笑顔で結ぶこと」を目標に取り組んでまいります。

当第3四半期連結累計期間の売上高は、新型コロナウイルスの新規感染者減少に伴い、経済活動の制限が緩和されたことにより、一部の業態で回復基調が見られたものの、前年の家庭内食品需要の反動減や取引の見直し等により、1兆5,296億73百万円となりました。営業利益は物流コストを含む販管費の減少等により147億59百万円(前年同期比24.4%増加)、経常利益は159億15百万円(前年同期比23.3%増加)、親会社株主に帰属する四半期純利益は112億円(前年同期比14.0%増加)となりました。

なお、「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日)等を第1四半期連結会計期間の期首より適用しており、当第3四半期連結累計期間の売上高は4,444億63百万円減少し、売上原価は4,171億61百万円減少し、販売費及び一般管理費は273億1百万円減少しておりますが、営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益、期首の利益剰余金に与える影響はありません。また、当第3四半期連結累計期間の売上高は、当該会計基準等を適用した後の数値となっており、対前年同四半期増減率は記載しておりません。詳細につきましては、「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項(会計方針の変更)」をご参照ください。

セグメントの業績は、次のとおりであります。

①加工食品事業

売上高は、スーパーマーケットやドラッグストア等を中心に、前年の家庭内食品需要の反動減や取引の見直し等により減少いたしました。利益面につきましては、売上高減少に伴う売上総利益の減少があるものの、物流コストを含む販管費の改善等により前年同期を上回りました。

以上の結果、売上高は5,229億82百万円、営業利益は36億1百万円(前年同期比33.8%増加)となりました。

②低温食品事業

売上高は、業務用商材を中心に一部の業態で回復基調が見られたものの、取引の見直し等により減少いたしました。利益面につきましては、一部業態の回復による物流効率化や取引の見直しに伴う物流コストの改善等により前年同期を上回りました。

以上の結果、売上高は4,320億69百万円、営業利益は78億57百万円(前年同期比29.8%増加)となりました。

③酒類事業

売上高は、業務用商材の落ち込みはあったものの、ディスカウントストア等との取引伸長により増加いたしました。利益面につきましては、主に受取りペートの契約期間変更等の影響から前年同期を下回りました。

以上の結果、売上高は3,682億55百万円、営業利益は25億92百万円(前年同期比13.7%減少)となりました。

④菓子事業

売上高は、コンビニエンスストア向けを中心に回復基調が見られるものの、取引の見直し等により減少いたしました。利益面につきましては、菓籠り需要に対応した高付加価値商材等が堅調に推移し、売上総利益の増加に寄与したことに加え、販管費の改善等により前年同期を上回りました。

以上の結果、売上高は2,044億57百万円、営業利益は18億8百万円（前年同期比27.1%増加）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末の財政状態について、総資産は前連結会計年度末と比較して1,041億37百万円増加いたしました。主たる要因は、流動資産において受取手形及び売掛金が880億81百万円増加したこと等によるものであります。

負債は前連結会計年度末と比較して1,334億6百万円増加いたしました。主たる要因は、流動負債において支払手形及び買掛金が1,338億63百万円増加したこと等によるものであります。

純資産は前連結会計年度末と比較して292億69百万円減少いたしました。主たる要因は、自己株式の取得及び消却等によるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当社は、当第3四半期の業績動向を踏まえ、2021年5月10日に公表いたしました2022年3月期の通期の連結業績予想を修正しております。

売上高につきましては、終息の兆しが見えないコロナ禍を背景に、一部業態の回復遅れや取引の見直し等による減少が見込まれる一方で、利益面では着実に進めてきた物流効率化施策に加え、コロナ禍に起因する物量波動の抑制に伴う物流コストの削減、またモバイルワークの浸透による販管費の削減等が寄与し、各段階利益で当初の予想を上回る見込みです。

なお、配当につきましては、資本効率を重視し成長投資を優先した上で積極的な株主還元を行うという基本方針に基づき、通期連結業績予想の修正を踏まえ、当期の期末配当予想を修正しております。

詳細につきましては、本日(2022年2月2日)公表の「業績予想の修正及び配当予想の修正(増配)に関するお知らせ」をご覧ください。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2021年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2021年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	438	629
受取手形及び売掛金	308,205	396,286
商品及び製品	66,404	88,165
原材料及び貯蔵品	835	987
短期貸付金	95,697	81,825
その他	60,949	69,386
貸倒引当金	△133	△184
流動資産合計	532,396	637,095
固定資産		
有形固定資産	78,180	81,125
無形固定資産		
のれん	1,787	1,506
その他	17,487	17,462
無形固定資産合計	19,274	18,969
投資その他の資産		
投資有価証券	31,452	29,040
その他	23,065	22,276
貸倒引当金	△88	△89
投資その他の資産合計	54,429	51,227
固定資産合計	151,883	151,322
資産合計	684,280	788,418
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	395,778	529,641
引当金	2,647	103
その他	60,444	62,248
流動負債合計	458,870	591,994
固定負債		
退職給付に係る負債	11,403	11,415
資産除去債務	7,672	8,767
その他	9,327	8,503
固定負債合計	28,403	28,686
負債合計	487,273	620,680
純資産の部		
株主資本		
資本金	10,630	10,630
資本剰余金	33,387	10,117
利益剰余金	144,128	137,835
自己株式	△2,560	△0
株主資本合計	185,585	158,583
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	10,881	8,403
繰延ヘッジ損益	99	92
為替換算調整勘定	△81	108
退職給付に係る調整累計額	391	412
その他の包括利益累計額合計	11,291	9,016
非支配株主持分	128	137
純資産合計	197,006	167,737
負債純資産合計	684,280	788,418

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)
売上高	1,977,008	1,529,673
売上原価	1,848,143	1,427,943
売上総利益	128,864	101,729
販売費及び一般管理費	116,995	86,970
営業利益	11,868	14,759
営業外収益		
受取利息	49	53
受取配当金	568	614
不動産賃貸料	1,026	990
その他	914	917
営業外収益合計	2,559	2,576
営業外費用		
支払利息	143	125
不動産賃貸費用	916	932
その他	455	362
営業外費用合計	1,515	1,420
経常利益	12,912	15,915
特別利益		
投資有価証券売却益	6	-
固定資産売却益	1,747	211
その他	278	-
特別利益合計	2,033	211
特別損失		
減損損失	134	55
本社移転費用	202	-
投資有価証券売却損	18	31
その他	139	8
特別損失合計	494	95
税金等調整前四半期純利益	14,450	16,031
法人税、住民税及び事業税	2,922	3,909
法人税等調整額	1,680	902
法人税等合計	4,602	4,812
四半期純利益	9,848	11,219
非支配株主に帰属する四半期純利益	22	18
親会社株主に帰属する四半期純利益	9,826	11,200

(四半期連結包括利益計算書)
(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)
四半期純利益	9,848	11,219
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	4,223	△2,478
繰延ヘッジ損益	△72	△7
為替換算調整勘定	△4	16
退職給付に係る調整額	79	21
持分法適用会社に対する持分相当額	10	173
その他の包括利益合計	4,236	△2,275
四半期包括利益	14,084	8,944
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	14,062	8,925
非支配株主に係る四半期包括利益	22	18

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当社は、2021年5月27日開催の取締役会決議に基づき、2021年7月16日付で自己株式13,600,000株(35,251百万円)の取得を行いました。

また、2021年7月20日開催の取締役会決議に基づき、2021年8月31日付で自己株式14,588,290株(37,811百万円)の消却を実施いたしました。

この結果、当第3四半期連結累計期間において資本剰余金が23,270百万円、利益剰余金が14,540百万円、自己株式が2,560百万円それぞれ減少しております。

(会計方針の変更)

(収益認識に関する会計基準等の適用)

「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日。以下「収益認識会計基準」という。)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、約束した財又はサービスの支配が顧客に移転した時点で、当該財又はサービスと交換に受け取ると見込まれる金額で収益を認識することとしております。これによる主な変更点は以下の通りです。

1. 代理人取引に係る収益認識

一部の取引について、従来は、顧客から受け取る対価の総額を収益として認識していましたが、顧客への財又はサービスの提供における当社グループの役割が代理人に該当する取引については、顧客から受け取る額から仕入先に支払う額を控除した純額で収益を認識することとしております。

2. 顧客に支払われる対価

従来は、販売費及び一般管理費に計上しておりました事務費等の一部を、取引価格から減額しております。

収益認識会計基準等の適用については、収益認識会計基準第84項ただし書きに定める経過的な取扱いに従っており、第1四半期連結会計期間の期首より前に新たな会計方針を遡及適用した場合の累積的影響額を、第1四半期連結会計期間の期首の利益剰余金に加減し、当該期首残高から新たな会計方針を適用しております。

この結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は4,444億63百万円減少し、売上原価は4,171億61百万円減少し、販売費及び一般管理費は273億1百万円減少しておりますが、営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益、期首の利益剰余金に与える影響はありません。

なお、「四半期財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第12号 2020年3月31日)第28-15項に定める経過的な取扱いに従って、前第3四半期連結累計期間に係る顧客との契約から生じる収益を分解した情報を記載しておりません。

(追加情報)

(新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響に関する会計上の見積り)

新型コロナウイルス感染症の収束時期等を見通すことは困難なため、当社グループの今後の業績に与える影響は不透明であります。新型コロナウイルス感染症の影響は、当連結会計年度を通じ継続するものと仮定の上で会計上の見積りを行っておりますが、現時点において重要な影響を与えるものではないと判断しております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自2020年4月1日至2020年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント					その他 (注)	調整額	四半期連結 損益計算書 計上額
	加工食品 事業	低温食品 事業	酒類事業	菓子事業	計			
売上高								
外部顧客への売上高	618,586	737,125	377,094	228,935	1,961,741	15,266	—	1,977,008
セグメント間の内部売上高又は振替高	333	105	44	1	484	11,424	△11,908	—
計	618,919	737,230	377,139	228,936	1,962,225	26,690	△11,908	1,977,008
セグメント利益	2,691	6,054	3,004	1,422	13,173	309	△1,615	11,868

(注) 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、物流事業等を含んでおります。

2. 報告セグメントの利益の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の内容
(差異調整に関する事項)

(単位:百万円)

利益	金額
報告セグメント計	13,173
「その他」の区分の利益	309
のれんの償却額	△223
全社費用	△1,391
四半期連結損益計算書の営業利益	11,868

II 当第3四半期連結累計期間(自2021年4月1日至2021年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント					その他 (注)	調整額	四半期連結 損益計算書 計上額
	加工食品 事業	低温食品 事業	酒類事業	菓子事業	計			
売上高								
顧客との契約から生じる収益	522,982	432,069	368,255	204,457	1,527,765	1,908	—	1,529,673
その他の収益	—	—	—	—	—	—	—	—
外部顧客への売上高	522,982	432,069	368,255	204,457	1,527,765	1,908	—	1,529,673
セグメント間の内部売上高又は振替高	54	0	61	2	118	5,941	△6,059	—
計	523,036	432,070	368,317	204,459	1,527,883	7,849	△6,059	1,529,673
セグメント利益	3,601	7,857	2,592	1,808	15,860	299	△1,400	14,759

(注) 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、物流事業等を含んでおります。

2. 報告セグメントの利益の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容
(差異調整に関する事項)

(単位：百万円)

利益	金額
報告セグメント計	15,860
「その他」の区分の利益	299
のれんの償却額	△223
全社費用	△1,177
四半期連結損益計算書の営業利益	14,759

3. 補足情報

(1) 品種別売上高明細表

品種	前第3四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)		当第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)	
	金額 (百万円)	構成比 (%)	金額 (百万円)	構成比 (%)
缶詰・調味料類	221,139	11.2	186,118	12.1
麺・乾物類	122,452	6.2	106,431	7.0
嗜好品・飲料類	223,376	11.3	184,168	12.0
菓子類	242,476	12.2	204,008	13.3
冷凍・チルド食品類	685,774	34.7	363,706	23.8
ビール類	195,173	9.9	195,285	12.8
その他酒類	166,101	8.4	155,674	10.2
その他	120,513	6.1	134,279	8.8
合計	1,977,008	100.0	1,529,673	100.0

(2) 業態別売上高明細表

業態	前第3四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)		当第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)	
	金額 (百万円)	構成比 (%)	金額 (百万円)	構成比 (%)
卸売	153,885	7.8	129,554	8.5
SM	844,540	42.7	749,796	49.0
CVS	599,794	30.3	302,791	19.8
ドラッグストア	121,955	6.2	118,150	7.7
ユーザー	42,554	2.2	25,190	1.6
その他直販	170,604	8.6	174,026	11.4
(直販計)	1,779,449	90.0	1,369,956	89.5
メーカー・他	43,673	2.2	30,163	2.0
合計	1,977,008	100.0	1,529,673	100.0

(注) 1. ユーザーは外食・中食・給食等消費者へ直接飲食サービスを提供する事業者であります。
2. その他直販はディスカウントストア・EC事業者・ホームセンター・百貨店等であります。

※参考値として前連結会計年度の品種別・業態別売上高を記載しておりましたが、「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日)等の適用に伴い、第1四半期連結累計期間より記載しておりません。